

戦評用紙

令和元年度埼玉県高等学校バスケットボール新人大会

令和元年5月17日(金)

会場 越谷市立総合体育館

第1試合

対戦	埼玉栄 高校	20	—	15	山村学園 高校
	87	19	—	18	66
		21	—	15	
		27	—	18	

第1Q 両者ディフェンスはマンツーマン。山村学園#7のドライブでゲームが始まる。高さのある埼玉栄#12に守られているが、山村学園#7が果敢に攻め続け、ゴール下で活躍する。山村学園はディフェンスを頑張り、埼玉栄に外角からのシュートを多くさせ、リズムを作らせない。しかし、埼玉栄#2のローポスト1対1をきっかけに、#3の3Pが連続して入り、流れが変わる。山村学園はタイムアウトを取り、ディフェンスを立て直す。また#5をきっかけに得点を生み出し、20-15埼玉栄リードで第1Q終了する。

第2Q 序盤、山村学園は#16の勢いあるカットインや3Pと#7の得点により同点にする。埼玉栄は#1から#2への合わせや山村学園のオフェンスミスから連続して速攻をしかけ、すぐさま得点差をつける。その後は一進一退のゲームになり、39-33で前半が終わる。

第3Q 埼玉栄は長身選手#12#2にボールを集めるが、山村学園は人数をかけてゴール下をとめにかかると。埼玉栄の点が伸びないところで、山村学園は#6がルーズボールやリバウンドからのシュートで加点する。なかなか流れがつかめなかったが、埼玉栄#0がオフェンスリバウンドからシュートファウルをもらったり、#12のゴール下で加点したり、得点が動き出す。山村学園は#7や#12で得点していくが、苦しい形でのシュートが多くなる。埼玉栄のディフェンスに苦しむ形になり、オールコートではバックパスやパスミス、ハーフコートでは苦しいシュートから、リバウンドを取られ、速攻での得点が多くなり、点差を広げられてしまう。60-48埼玉栄リードで第3クォーター終了。

第4Q 山村学園#5の勢いのあるプレーでフリースローをもらい、頑張りが見えるが、第3Qの流れの悪さは続いている。体勢の悪い状態からのシュートが多くなり、埼玉栄が速攻につなげ、得点していく。その後は、なかなか得点が縮まる状況を作り出せず、87-66で埼玉栄が勝利し、関東大会出場権を獲得した。